



上原だより

渋谷区立上原小学校
校長 佐伯 孝司

<https://shibuya.schoolweb.ne.jp/1310240>

楽しい仲間との協力で最高の喜びを 校長 佐伯 孝司



全教室を含む校内の至る所に左のポスターが貼られています。児童会の代表委員会の取組です。1～6年生みんなで学校をよりよくする行動、仲よくするためにできることを考えたときに、見付けた答えが「あいさつ」でした。この考えの基になっている児童会のスローガンが、右の画像のとおり校内に掲げられています。この



「楽しい仲間」づくり、「協力」できる関係づくりを進め、学校生活の喜びを自分

たちでつくろうと児童会が主体的に取り組んでいる姿に、心を動かされるこの頃です。

2月、代表委員会と集会委員会が「協力」し、「上原ふれあいパーティー」のイベントを企画しました。このイベントを行うことで、誰でも気軽に「あいさつ」ができるようにするために、全学年が「楽しい仲間」になるためにとの願いを込めて企画し、実践しました。1～6年生が楽しめるゲーム、異学年の友達と楽しくふれあったり自己紹介したりする機会をつくるゲームを取り入れるなど、工夫が感じられます。



「上原ふれあいパーティー」では、担当児童の呼び掛けに応え、参加児童みんなが「ふれあう」「楽しむ」ことを意識して、よい雰囲気をつくっていました。

他の委員会も含め、今年度は全委員会が、学校生活をもっと楽しくする、もっとよい上原小をつくるという願いをもって、昨年度までの活動内容を見直し、新たな取組に挑戦していました。

このように、5・6年生を中心とした児童会が、この一年間を通じて、よりよい学校づくりへの取組を主体的に考え、進めてくれました。

このような児童の主体的な取組につながる種を、児童自身がまいてきました。様々な活動に取り組みながら、目的に向かい、集団の中心となって活動をけん引する姿勢（リーダーシップ）とともに、目的のために自分にできることを考え協力する姿勢（フォロワーシップ）を身に付けてきています。

異学年でグループ活動を行う「なかよし班」の活動は、年明けから5年生がグループのリーダーとなって企画・運営しています。この姿が頼もしいのですが、さらに他学年の児童の協力する姿に感心します。6年生は自身の経験を生かして5年生を助け、1～4年生も自分たちにできることを考えて活動に協力し、みんなで楽しむ活動を自分たちで作り、支え合っています。



「なかよし班活動」様々な問題もリーダーを中心に話し合い、みんなで活動を支え合います。

「6年生を送る会」では、6年生から在校生に「自分たちの学校は、自分たちの手でよくすることができる」という言葉がありました。一年間の取組で児童の意識も変化しています。



「6年生を送る会」各学年の出し物を見つめる6年生。優しい眼差しと笑顔が楽しく温かい会を支えていました。

このような姿が、「楽しい仲間」「協力」を生み出し、「最高の喜びを分かち合」うことにつながるものと信じています。

本校教員チームは、年度当初からこのような児童の姿を思い描き、協働してきました。シブヤ未来科をはじめとした学習面だけでなく、学校生活の面でも同様に、児童が自ら問いを立て協力して解決を図る過程を主体的に進んでいくよう、組織的・計画的に取り組んできました。変容する児童の素晴らしさを誰よりも理解しているつもりです。教育目標「ともに学び ともに生きる」を児童も教員も一緒に具現化してきた一年間でした。たくさん感動をくれた児童、その児童の成長のために、本校の教育活動にご理解とご協力をくださいました全ての皆様に、心より感謝申し上げます。



「クラブ発表集会」素晴らしい発表を真剣に見て拍手を贈る聞き手の温かい行動が活動を支えます。